

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

大型連休の過ごし方

入学、進級したのち、疲れを感じている子いるかもしれません。ご家庭でもお子さんの体調等へのご配慮をお願いいたします。

さて、大型連休が安全で楽しいものとなるよう、次のことをご家庭でもご留意ください。

- ①早寝・早起き等の規則正しい生活
- ②交通安全（「飛び出し」禁止、自転車・ボード類のヘルメット着用）
- ③線路への置き石等の禁止
- ④外出の際の行き先・帰宅時刻等の明示
- ⑤携帯電話やスマートホンを持っている場合、親の目による確認（SNS等のトラブル防止）
- ⑥家庭や地域でもあいさつを
- ⑦公共の場所でのマナー（ゴミを放置しない、体育文化館とコミュニティセンター内の室内通路で走らない・遊ばない、体育文化館前のワインレット舗装部分では、自転車やボード類には乗らない→車両出入りでたいへん危険）

夏のクールビズ対応、熱中症予防

5月1日から10月31日まで、夏の省エネルギー対策の一環として、学校でも上着・ネクタイなしのクールビズ対応をいたします。また、教室へのクーラー設置・運用は、来年の夏となる見通しですが、今年の夏も細やかな水分補給、薄着で風通しのよい服装、帽子の着用、何より十分な栄養・睡眠・休養等による熱中症予防にご留意ください。

祇園歴史の旅（その38）「昭和の時代は明暗こもごも」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。「昭和2年（1927）、今日の国民体育大会に当たる明治神宮大会が開かれ、1万メートル競争で佐世保の小柳早見が優勝しました。小柳は、大正3年に常盤町で開業した佐世保で初めての小児科『田崎小児科医院』の人力車夫、通称“別当さん”でした。大正時代の医師は、ほとんど往診に人力車を使い、マラソンが得意の小柳は飼い犬のシェパード次郎をお供にして走り、町の名物でした。現在も続く小柳賞ロードレース大会は、この小柳の顕彰し、記念する大会です。

田崎小児科医院を開業したのは田崎忠夫医師。養父田崎健一医師は、小児科では食べて行けないかもしれないと危惧しましたが、忠夫氏は『子供を診るのは小児科医でなければならない』との信念を堅持、苦しみながらも小児科の理想を追求されました。また、『淀川（ていせん）』の俳号も持っていた田崎忠夫氏は、大正9年に福石町で開業した犬塚赫男（てるお）[号皆春] 医師らと共に句作を競い、文人医師としても知られました。 ～月今宵 九十九島を浮彫りに 淀川～

行政の面では、懸案だった日宇、佐世保両村の佐世保合併が実現、人口は13万人を超えました。また、毎日新聞主催『新日本百景・海岸の部』に九十九島が第1位となり、今日の観光立市の先がけとなります。昭和3年11月10日昭和天皇御即位大典が挙行され、祝賀行事が相次ぎました。この年は、戦前の名物に上げられていたエビス市が始まり、塩浜町海岸通りは集まった人々で賑わいました。春秋2回の開催は10年間も続き、秋の八幡宮祭礼のおくんちも、お旅所を塩浜町に置いて活況を呈したものです。

しかし、世界は昭和4年10月24日、ニューヨーク株式が大暴落、世界恐慌が始まり、日本は前年中国での張作林爆殺事件に軍部が関与、南京での排日運動激化と、日本は中国大陸で抜き差しならぬ泥沼へと足を踏み込んで行くのです。昭和15年は、戦前採用されていた『皇紀』つまり神武天皇から数えて2千6百年を迎え、国威発揚も兼ねて日本全国が祝賀気分に含まれました。『金鷄（きんし）輝く日本の 栄（はえ）ある光（ひかり）身に受けて 今こそ祝えこのあした 紀元は2千6百年 ああ1億の胸はなる』誰もが紀元2千6百年を歌い、2月11日の紀元節は全市で祝賀行事が頂点に達しました。その一方で、対米英戦必至の気分が市民にも徐々に浸透し、町内ごとに家庭防空群が結成。昭和16年12月8日、日本のハワイ・パールハーバー奇襲攻撃で太平洋戦争が始まりました。」

次回は、「戦前は高天町、戦後は戸尾市場～実体験の20年の私記録～」と題して、筒井隆義さんの実体験をご紹介します。。。。